

## 聴覚障害とは..

聴覚障害と言っても、聞こえの程度は様々です。障害が生じた年齢、受けた教育の違いなどによって、話す言葉の明瞭度や読み書きの能力にも大きな差があります。

聴覚障害者だけではなく、視覚障害を併せ持つ「盲ろう者」もいます。このように障害の程度によって、一人ひとりのコミュニケーション手段も異なります。



「聞こえない」「聞こえにくい」ことで、受けることのできる情報量に制約が生じます。そのために、日本語の習得に個人差が大きくみられ、「判断」や「決定」するために必要な情報が得られにくくなります。また、会話に入りにくく、人間関係のつまずきや社会参加ができない等の心理的な負担も生じます。聴覚障害は見た目ではわかりにくい障害であり、「情報障害」「コミュニケーション障害」ともいわれています。



大地震や災害などでは、緊急放送や非常ベルなどが聞こえず、避難が遅れてしまい命の危険にさらされてしまうことがあります。避難所においては呼びかけの内容が把握できず、物資支給に間に合わない、行政手続きができない等、支援から取り残されてしまうことがあります。



このような問題は、聴覚障害者自身の注意や努力だけでは解決できません。周囲から孤立しないよう、日常生活や職場の中での周囲の配慮や支援が欠かせません。手話・身振り・筆談・イラストなどを使ってコミュニケーションを図り、必要な時には手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者向け・通訳介助員を利用しながら、聴覚障害者が社会の中で力を発揮し、安心して自立した生活を送れるようにすることが大切です。

